

令和4年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	上社周辺（本宮～前宮間）の歴史遺産の掘りかえしと活性化
事業主体 (連絡先)	上社周辺まちづくり協議会 諏訪市中洲 768
事業区分	産業振興・雇用拡大に関する事業。特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	689,510 円（うち支援金： 542,000 円）

事業内容

- ・上社周辺（ことに前宮を含む東参道）を活性化するべく既存（令和3年度県地域発元気づくり支援金事業）のガイドブックを5000部増刷し、観光拠点に配った
- ・このガイドブックをもっと詳しく知ってもらうための解説書（小中学生向）を500部作成し歴史講座を開いた
- ・上社周辺まちづくり協議会の拠点を本宮階前「柏屋」に設置し、その運営開始の告知フライヤーを作成し、ギャラリーとしても使用できるようにした
- ・廃仏毀釈にあった上社普賢堂と五重塔を公立諏訪東京理科大とのコラボによりAR化し、タブレット端末にて多くの人に見てもらった。



【中洲小での講座】

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①御柱年（コロナ禍のため大幅縮小）につき、諏訪ちの観光協会での大量の頒布で、諏訪大社本宮周辺「じぐじ」の歴史散策を容易にした。
- ②令和5年1月18日中洲小学校多目的ホールにおいて5年生に「じぐじ」と解説書を使った地元歴史講座を持った。地元の歴史に関心をいただいた生徒を数多く作った。同時に諏訪市内の小学5年生410人に「じぐじ」と解説書を配った
- ③上社周辺まちづくり協議会のしようとしていることを地元住民に知ってもらう。またさまざまな人の交流の場としてカフェ・ギャラリーは活動している
- ④諏訪信仰プロジェクト（10/1～11/27）においてその活躍は目覚ましく、破壊された建物の現実感を多くの人に見てもらいかつての繁栄と偉大さを実感してもらうことができた

【目標・ねらい】

- ①地元の小学生に、地元の歴史に誇りを持ってもらう
- ②まちづくり拠点での活動が明確化し、情報の集約と発信が容易になる
- ③上社とその神宮寺の長い習合の歴史を知ってもらう
- ④AR・VRなどAIの技術の進歩を高齢者層に実感してもらう

※自己評価【 A 】

【理由】

- ・上社周辺の歴史について数多くの質問をいただき、その回答を直に聞きたいという思いもよらない形があった（ことに「この地の廃仏稀釈の多かったわけは？」）
- ・小学生が地元の歴史に、予想外の興味を示してくれた

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

まちづくりの拠点ができたので 今後①WSを行うことで、上社周辺の歴史を深く知る人を増やし②観光客にこの歴史を披露・解説し ③ARにて可視化された神宮寺伽藍を体験してもらい ④多くの人の交流の場をつくり ⑤中洲以外の小学校にも、配布した冊子の解説講座をもって歴史講座を開き こうしたことを通して、これからのまちづくりの基本をみんなで作り上げたい